

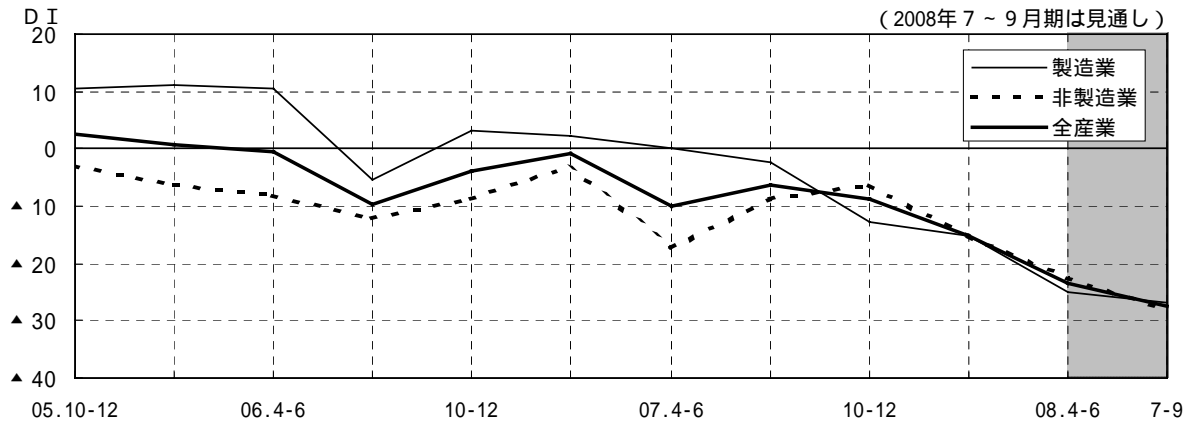
業況概要(自社)

～ 製造業・非製造業とも業況判断DIはさらに悪化～

静岡県東部地域における2008年4～6月期の業況判断DIは、前期よりさらに低下し全産業で▲23.6(前期▲15.1)と、04年7～9月期以来の水準に落ち込んだ。製造業の業況判断DIは▲25.0(同▲15.1)、非製造業も▲22.6(同▲15.1)といずれも低下している。原材料等の値上がりや受注・売上の停滞・減少等を背景に、企業の経営環境の悪化が懸念され、全般的な業況判断を押し下げているとみられる。

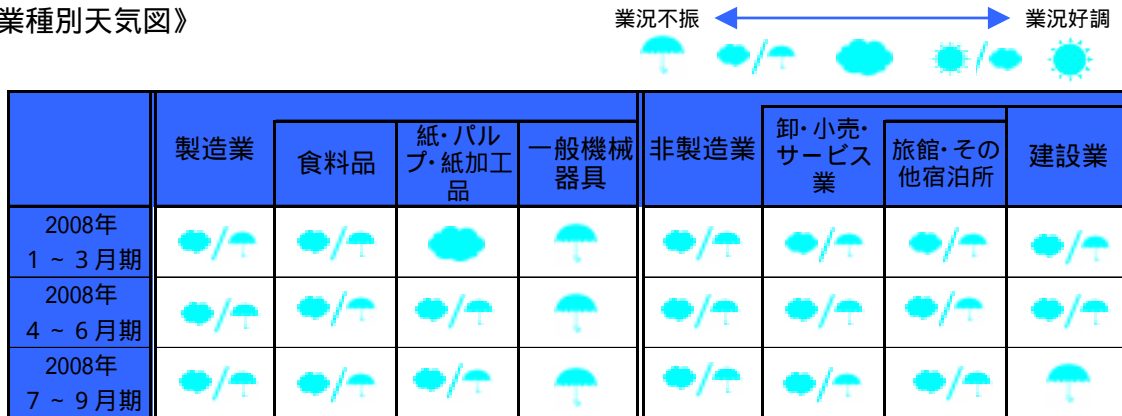
2008年7～9月期の見通しは、製造業、非製造業とも一層のDI低下を見込んでいることから、全体DIも▲27.5と続落が予想されており、先行きへの見方は引き続き厳しい状態にある。

《業況判断指数推移》



DI: ディフュージョンインデックス(Diffusion Index)の略。
「上昇、増加、好転」した企業割合から「下降、減少、悪化」した企業割合を差し引いたもので、業況判断を見る指標です。

《業種別天気図》



2008年7～9月期は見通し

《調査の概要》

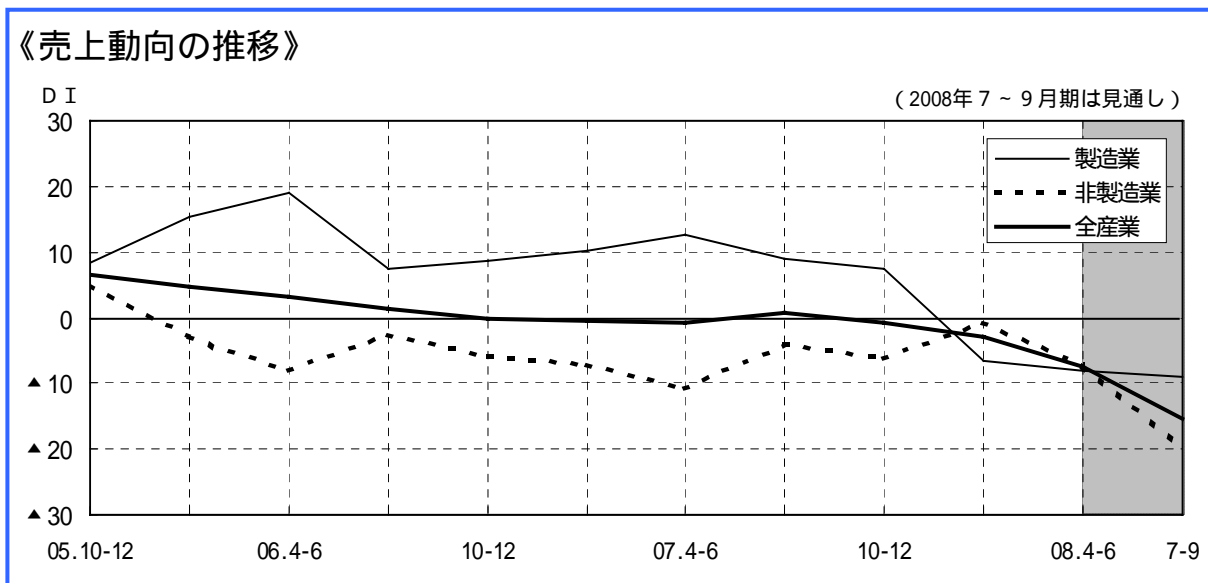
- 調査目的
静岡県東部地域(富士川以東)の景気動向と先行きを予測し、主要産業の実態を把握
- 調査対象企業
静岡県東部地域に立地する企業 1,040社
回答数 280(回答率26.9%)
業種別企業数は4ページ下段図表を参照
- 調査方法
当研究所の指定した項目につき、記名式で実績と見通しを記入するアンケート調査
- 調査対象期間
実績:2008年4～6月期 見通し:2008年7～9月期
- 調査時点
2008年5～6月
おことわり
今回調査より調査企業数を拡大したため、回答いただいた企業数が前期までとは若干変化しています。従ってDI値等の変化には、本来反映される企業活動変化の影響以外に、回答企業の数の変化による影響が含まれている可能性があります。あらかじめご留意ください。

売上動向

製造業は連続してD I 低下、非製造業のD I も低下に転じる

2008年4～6月期の全産業の売上動向D I は引続き低下し▲7.5(前期▲3.0)となる。製造業では製品価格の引上げがあったパルプ・紙・紙加工品などでD I が上昇したが、金属製品やその他製造業では低下し、全体D I は▲8.1(同▲6.5)となる。一方、非製造業でも建設業をはじめ各業種でD I が前期比やや低下したため、全体でも▲7.1(同▲0.7)と再び低下に転じている。

2008年7～9月期(見通し)の予想D I は全産業で▲15.5となり、さらなる低下が予測されている。製造業の下落幅は小さいが、非製造業では▲19.8と大幅な低下を見込んでおり、厳しい判断が目立つ。

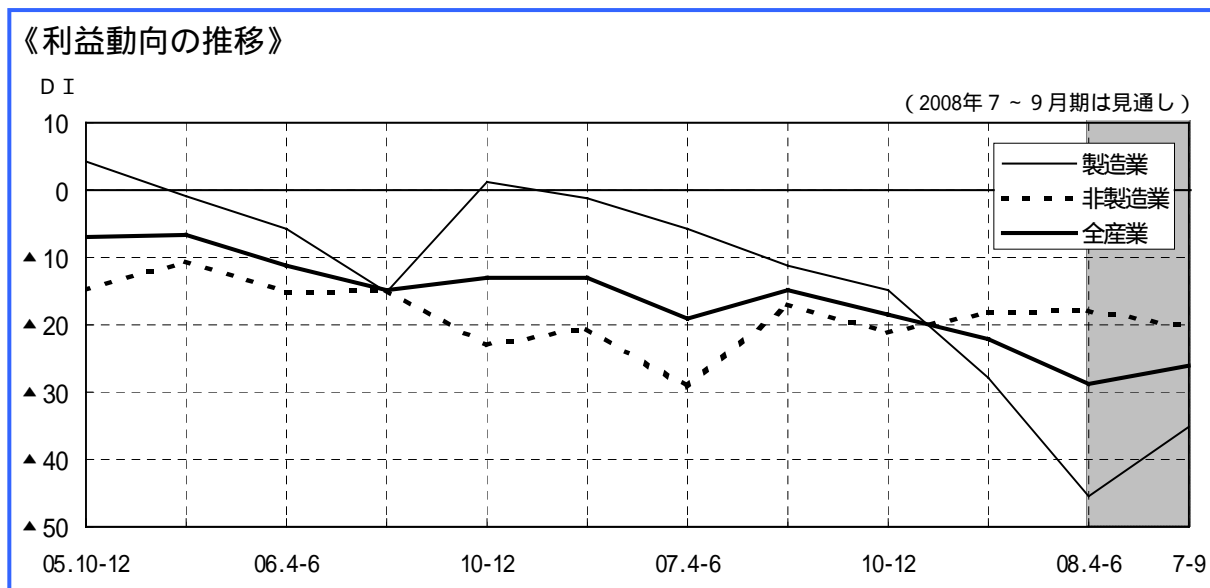


利益動向

製造業のD I が大幅に低下、02年1～3月期以来の低水準に

2008年4～6月期の全産業の利益動向D I は▲28.9(前期▲22.1)とさらに低下した。うち、製造業はパルプ・紙・紙加工品でD I が若干改善したが、食品や金属製品でD I が大幅に低下したため、全体で▲45.5(同▲28.0)と02年1～3月期以来の低水準となった。一方、非製造業の全体D I は▲17.9(同▲18.1)とほぼ横ばいで推移した。建設業でD I が上昇したが、旅館・その他宿泊所では低下している。

2008年7～9月期(見通し)のD I は、全産業で▲26.2と若干の反転上昇が見込まれている。うち製造業では上昇への期待感が強いが、非製造業ではD I の若干の低下が予測されており見方が分かれている。

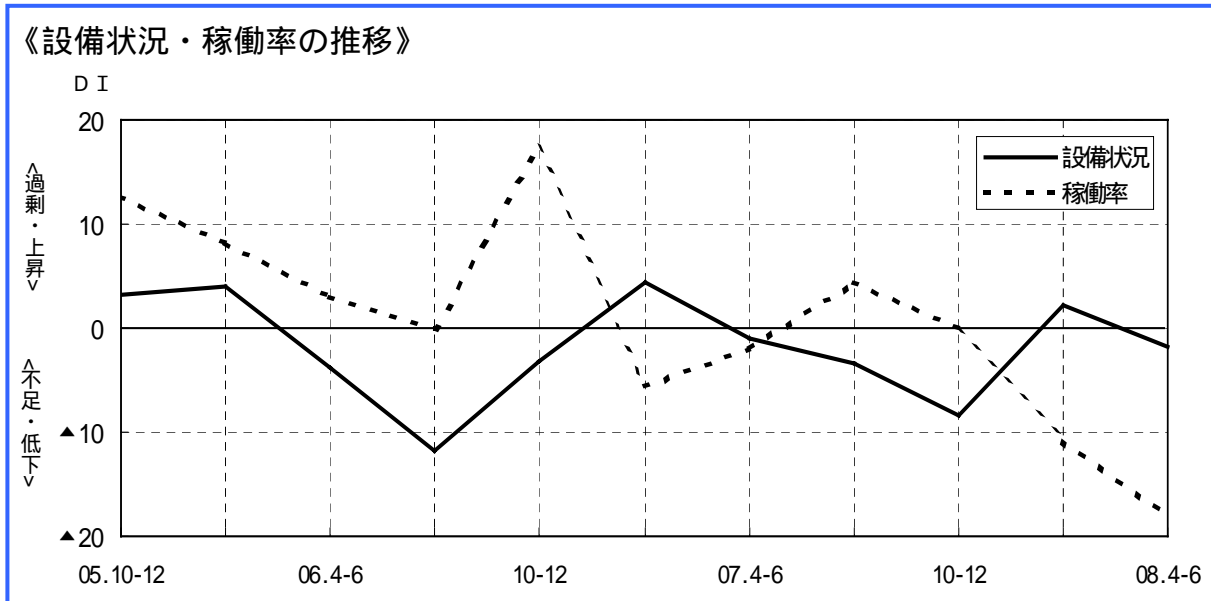


設備状況・稼働率
(製造業)

設備状況はわずかに「不足」、稼働率はさらに「低下」

2008年4～6月期の設備状況DIは▲1.8(前期2.2)と反転して下落し、わずかながら「不足」に転じている。食料品で「不足」感が強まり、その他製造業でも「過剰」感が緩和された一方、一般機械器具で「過剰」感が強まり、金属製品も「不足」から「適正」水準に戻っている。

一方、稼働率DIは▲18.0(同▲10.8)と低下し、判断はさらに「低下」となった。食料品で「低下」感が緩和された反面、金属製品や一般機械器具で「低下」感がさらに強まっている。

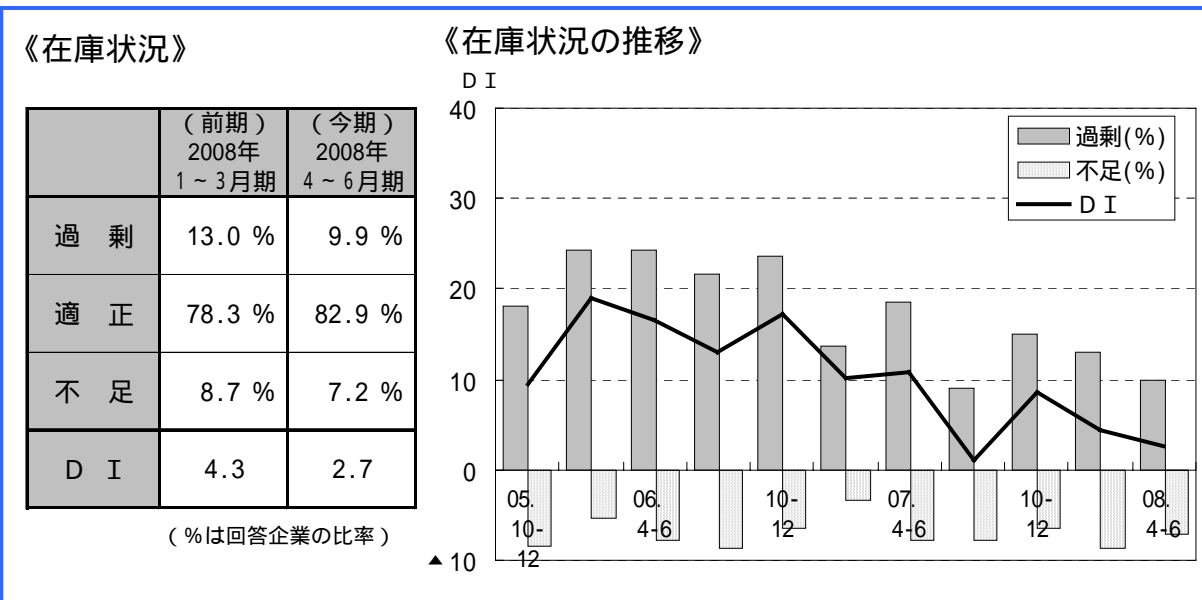


在庫状況
(製造業)

DIが引続き低下、在庫過剰感は緩和の方向

2008年4～6月期の在庫状況(製造業)DIは2.7(前期4.3)と引続き低下し、在庫過剰感は緩和の方向にある。内訳をみると、「過剰」とする企業の割合が9.9%(同13.9%)と減少する一方、「適正」の回答比率は82.9%(同78.3%)と上昇し、在庫を適正規模の範囲に収める企業が増加している。

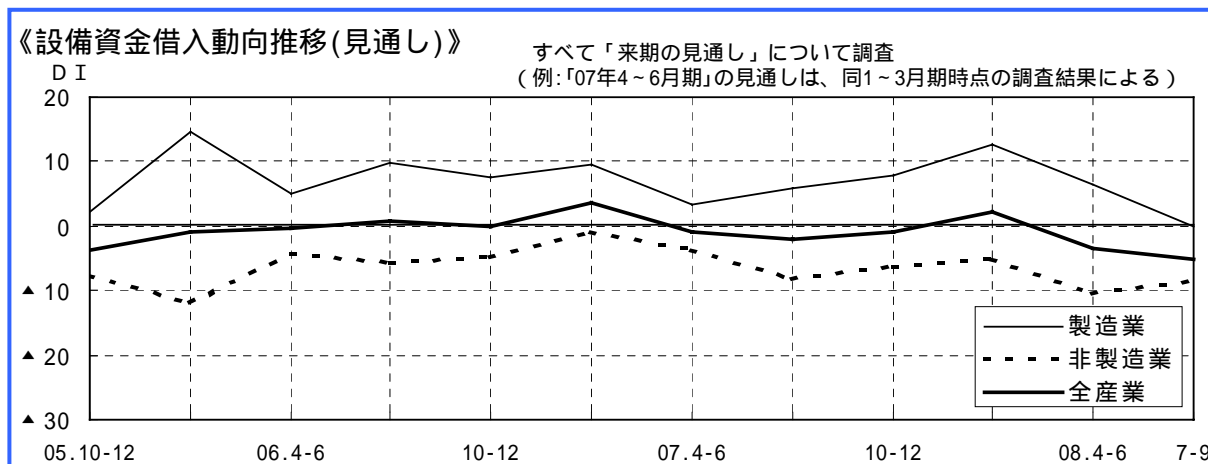
業種別では、一般機械器具でDIが上昇し、「過剰」感が強まっているが、パルプ・紙・紙加工品ではDIが低下し「不足」感が強まっている。また金属製品やその他製造業でもDIが低下し、「過剰」感が緩和されつつある。



設備資金借入
動向(来期)

製造業のD Iはさらに低下、非製造業D Iは反転して上昇

2008年7～9月期(来期)の全産業の設備資金借入動向(見通し)D Iは▲5.1(前期▲3.5)と引き続き低下し、借入抑制の基調が強まっている。うち製造業は0.0(同6.5)とD Iがさらに低下し、借入に対して中立の状態になった。一方、非製造業では▲8.6(同▲10.4)と反転上昇し、借入抑制基調は若干緩和された。



経営上の問題点

「原材料・仕入商品の値上がり」の回答比率がさらに上昇

「原材料・仕入商品の値上がり」の回答比率がさらに上昇している。業種別でも製造業の9割弱、非製造業でもほぼ半数の企業から指摘されており、問題とする企業の範囲の拡大が続いている。一方、前期に低下した「受注・売上の停滞・減少」の回答比率が再び上昇傾向に転じ、全体の5割を超えている。原材料価格の上昇その他に起因する景気の停滞・後退への動きが強まっていることが懸念される。

《経営上の問題点(上位8項目)》

(社、%)

	07年10～12月期		08年1～3月期		08年4～6月期		順位 変動
	企業	割合	企業	割合	企業	割合	
1. 原材料・仕入商品の値上がり	118	49.8	144	61.8	181	64.6	
2. 受注・売上の停滞・減少	112	47.3	108	46.4	142	50.7	
3. 人材の育成	86	36.3	69	29.6	93	33.2	
4. 過当競争・製品安	92	38.8	79	33.9	91	32.5	
5. その他経費の増加	41	17.3	48	20.6	55	19.6	
6. 従業員の高齢化	50	21.1	54	23.2	49	17.5	
7. 生産・販売能力の不足	44	18.6	34	14.6	46	16.4	
8. 求人難	32	13.5	29	12.4	38	13.6	

《業種別：回答企業数およびD I》

設備資金は来期の見通し、それ以外は今期実績

業種	企業数	売上動向	利益動向	設備状況	稼働率	在庫状況	設備資金
食料品	14	▲28.6	▲42.9	▲21.4	▲7.1	▲7.1	▲7.1
パルプ・紙・紙加工品	17	64.7	▲29.4	▲5.9	11.8	▲23.5	0.0
金属製品	16	0.0	▲31.3	0.0	▲12.5	0.0	6.3
一般機械器具	19	▲31.6	▲63.2	5.3	▲31.6	10.5	▲10.5
その他製造業	46	▲22.2	▲50.0	2.2	▲28.9	13.3	4.4
製造業計	112	▲8.1	▲45.5	▲1.8	▲18.0	2.7	0.0
旅館・その他宿泊所	16	▲31.3	▲37.5	-	-	-	25.0
その他小売・サービス業等	98	4.1	▲11.2	-	-	-	▲6.5
卸・小売・サービス業計	114	▲0.9	▲14.9	-	-	-	▲1.8
建設業計	54	▲20.4	▲24.1	-	-	-	▲22.6
非製造業計	168	▲7.1	▲17.9	-	-	-	▲8.6